

東京キモノショー2018 和裁職人大賞
最高位☆☆☆三ツ星獲得!

日本一の和裁士

5月に東京で開催された「東京キモノショー2018」の中での和裁技術を競うコンクール「和裁職人大賞」に出展。41作品中、最高位を獲得し日本一に輝いた和裁士の六久保満子さん(野市町)。受賞の喜びと、職人としての思いを伺いました。

■広報編集委員 担当:久保きみ



六久保満子さん

和裁士として

六久保さんは高校卒業後、和裁士だった母親の勧めで高知市内にあった和裁教室「三越式和裁教授所」で3年間学び、その後も同教室の加工部に所属し技術と経験を積まれた。21年前に国家資格である1級和裁技能士を取得し、5年前に「六久保和裁」として独立。呉服店や個人からの依頼を受け、自宅で和服の仕立てをされている。

技術への高い評価

コンクールは「着物の仕立てが工業化された体に馴染む着やすい仕立てが失われつつある。より多くの人に仕立ての良し悪し、工業化製品と職人縫製の違いを知ってもらおう事が必要。伝統技術を大切にしながら腕の良い職人が正当に評価される正当な対価を得るための技術評価」が趣旨。友人の勧めで「自分の仕事への評価が受けられるチャンスかもしれない」と挑戦を決めた。亡き母親が自分のためにと、残してくれた紋付の色無地の反物が手元にあったことも大きかった。

約20時間かけて仕立てた着物は、職人による厳正な審査を受けた。細かい「ぐし」縫いの美しさなどが高い評価を受

け、日本一の和裁士となった。「自分の技術を高く評価してもらえたことをうれしく思い、反物を残してくれた母にも感謝しています」と喜ばれていた。

心地良く着られるために

仕立てをする上で一番大変なことは「柄合わせ」。着る人の体形に合わせて胸や裾にきれいに柄が出るように、またその柄が重ならないように配置を考え、生地を裁つ前に数日間悩むことも。「よっし!」と思っても、いや待てよ...もっと良い柄行きが出せるのでは...と悩みに悩み頭の中で常に計算しています。着る人の体形や、着方の好みなどに合わせて楽に着られる仕立てを心がけているとのこと。

手縫いの良さを

海外縫製やマシン縫いの製品が増え、和裁職人の環境は厳しくなっている。身に付けた技術を守りつつ、広げていくためにも「腕の良い職人に正当な対価が流れる仕組み作り」など業界全体で取り組まないといけないことも。そう話してくれた六久保さんからはしっかりとした信念を感じた。

着物の特徴は仕立て直しができ、何代にも受け継いでいけること。マシンで縫った物はそれが難しいが、手縫いの場合解

いて染め直しや、身丈が足りなければ見えない所に布を足し、手が長い人に合わせで桁出しをしたりと修正できる。これも和裁士の技術の見せどころ。

現在、お客様から預かった長襦袢の「改造中」で、別の着物から取った生地を振袖用の袖に作り替えて仕上げる作業中。六久保さんは「タンスに眠っている着物や浴衣。譲り受けただけのサイズが合わず着られない...などあったらぜひ相談してください」と語ってくれた。

和裁士にとって一番大切な道具は「指ぬき」。この指ぬきの大事な役目と使い方方を教える「運針教室」をやってみたいとのこと。将来この地域から次世代を担う和裁士が生まれるかも!!



オオキンケイギクの駆除にご協力を!!

オオキンケイギクは北アメリカ原産の「特定外来生物」です。繁殖力が強いため、在来種の生態系に重大な影響を及ぼす恐れがありますので、次のことにご協力ください。

▼法律の定めで、栽培・運搬などはできません。

▼見つけたら根ごと抜き取って、種が飛び散らないように袋に入れ、枯らしてから燃えるごみに出してください。

▼道や河川敷で見つけた場合は、ご連絡ください。

■連絡・問い合わせ先

環境対策課

☎0887-578508



鮮やかな黄色い花が特徴です

《広報へのメール》

kouhou@city.kochi.konan.lg.jp

《香南市のホームページ》

http://www.city.kochi-konan.lg.jp



■お問い合わせ先

六久保 和裁

☎55-1014



フェイスブック

マチイロ
スマホで
広報を見よう
「i広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。

